

山田あゆみ 金井 優子

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。ご縁がありまして、ハロ山で一緒させていただくことになりました。演劇は「縁」つまり、巡り合わせだなあとと思います。つくる側もそうですし、お客様とも何かの「縁」で結ばれていると思います。今日この場に足を運んでいただき出会うことができた、このご縁に感謝しながら、あゆみを精一杯生きたいと思います。どうか楽しんでいただけますように。



稲葉清二 小池 武

得体の知れないものが目の前にある時、危うい気配を感じると共に、それが何であるのか知りたくなる。そんな状況があると思います。興味が、得体の知れない何かを魅力的に映し、非日常の存在へと変える。私はその現象を、この舞台に関わる中で、改めて感じました。本日はお忙しい中、ご来場下さり、ありがとうございます。皆様に楽しんで頂けるよう、出演者として、一生懸命頑張ります。



看護師 小村 君枝

1人語りをして10年。もっと表現力を高めたいと思っていた頃、ひよんな事から藤谷清六さんを知る事となり、そしてハロー山梨の一員として参加させてもらう事になりました。1つの作品は、たくさんの人達の協力の下に成り立っていて、しかも演者は発する側、受ける側の投げ方、受け方で演劇が光り、決して個人プレーではなく団体競技なのだと思える事が出来ました。さて、今回の作品、団体プレーがうまくいきましたでしょうか。



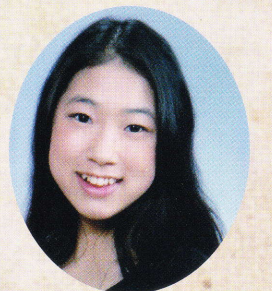
山田武史 佐々木 猛

稽古も終盤を迎えている。役者としての出演は今回で7作品目となるが、何度出演しても、残り一カ月となったこの時期が一番不安になる。稽古の時にも「佐々木君の性格が出ちゃっている。」と演出家に指摘されることがしばしばある。過去の作品においてもそのことで後悔したことがある。自身を追い込み、残りの時間を有意義に過ごし、山田武史という人間が確かに桜座に生きていたと思われるような芝居を皆様に、ぜひみていただきたい。

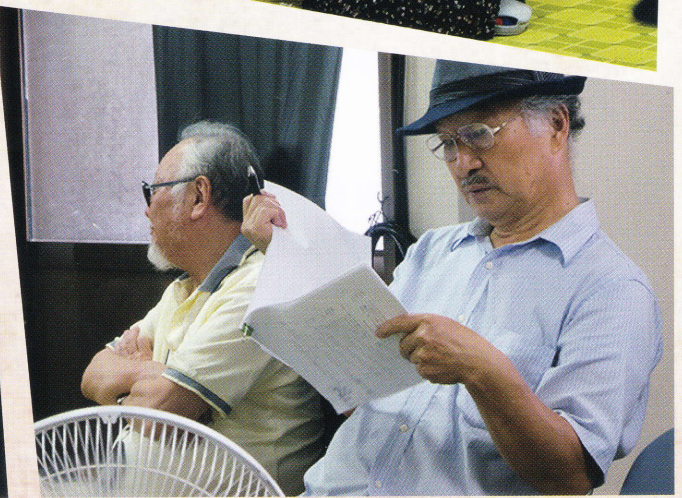


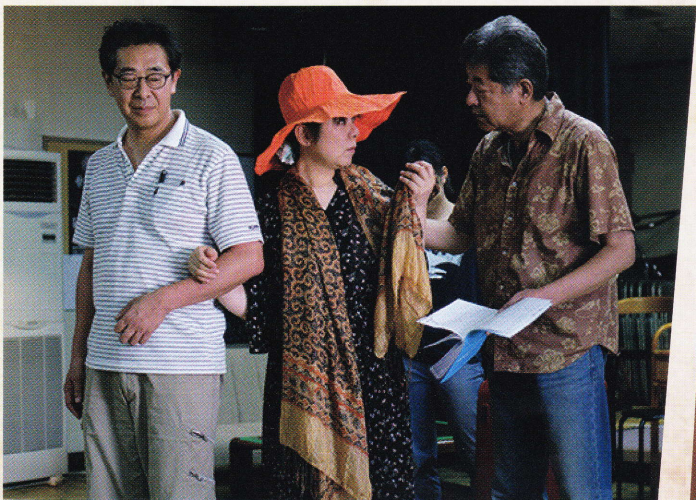
少年 渡邊 英里子

初めて年下の異性の役をやらせていただきました。役を演じるのにあたり、様々な個性を持つ登場人物の中で、少年が担っている役割は何かということ意識し役づくりを行いました。久しぶりに舞台に立つことができ、とてもワクワクしています。そして、藤谷ワールドに再び参加できることをとても嬉しく思います。本日の公演にお越し頂き本当にありがとうございます。藤谷ワールドを表現できるよう全力でやり抜きます！最後までお楽しみ頂ければ幸いです。



稽古場風景





「祝！ハロー山梨創立 20 周年・第 20 回記念公演」

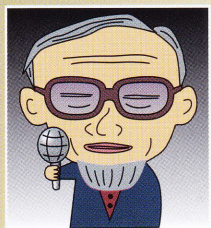


宣伝・デザイン
山中みゆき

清六さんから初めていただいた仕事の依頼は年賀状のデザイン。ご自身の似顔絵を「ランドセルを背負って舞台上に立つ小学1年生に変身させる」というご注文でした。かれこれ17年前のことです。還暦を期に、会社のトップとして長年封印していた「演劇」への復帰を宣言したのです。既に清六さんは、YAYAYA.TVなるインターネットTV局を立ち上げ、地元メディアが取りこぼす県内のエンタメ情報発信をしていました。ネットの草創期でSNSもYouTuberも存在しない時代でした。その頃の清六さんのお芝居は、奇天烈かつシュールな展開、最近のドラマで流行りのパラレルワールドありで、理解できる人は当時それほど多くなかったかもしれません。つまり何が言いたいのかというと、清六さんは世間よりも、かなり先を走っていたのです。

令和元年、ハロー山梨創立20周年であり記念すべき第20回公演は「欲望という名の電車」を下敷きにした戯曲「京成金町線哀歌」。古い価値観に囚われた悲しい女性のお話です。主人公のような虚飾の人生は昨今のSNS上にも垣間見ることがあります。それは見ず知らずの誰かにまで拡散され、身の破滅にもなりかねない。そんな時代の危うさを背景に、このお芝居を観ると怖いですが、クダラナイ見栄なんか捨てて、本来の自分をさらけ出して生きればいいんだよ、という清六さんの愛のメッセージが込められているような気がします。

「ハロー山梨20周年記念によせて」



プロデューサー
山本 眞樹

1999年ITバブルの頃、私はハロー山梨というインターネットテレビ局を始めて、県内著名人、また演劇人との対談などを配信していましたが、そのうちに、昔若かりし頃、東京でやっていた演劇をもう一度やってみようと思いつき、ハロー山梨演劇塾『YaYaYa』という小さなユニットを立ち上げ、年に1、2回の公演を継続して早20年になります。いつも同じスタッフ。ただし、キャストだけはその都度参加者を募っての公演です。演劇は娯楽であり、面白いことが一番！！ですから私が脚本を書く時は所謂「ためになる芝居」はしないという信念で書いて参りました。

山梨県の人口は世田谷区より少ない85万人です。そして演劇人口は役者、裏方、観客を含め僅か約500人ぐらいです。職場第一、家庭第一、さらに登山、テニス、ゴルフ、スキー等極めて多彩な趣味の隙間をぬってお芝居の稽古をしています。そのような多忙なる社会人を集めて、今週末もまたお芝居の稽古をするのです。家族に遠慮しながら・・・「でもこの灯を消すことは何故かできないのです。」

ハロー山梨演劇塾「YaYaYa」作品録

1. 極楽岩恋歌（映画）/2004年県立文学館
2. 眠れない赤鬼（映画）/2005年県立文学館
3. 愛妻物語/2006年9月県立文学館
4. 平成龍宮事情/2006年10月県立文学館
5. 揺籃/2007年6月甲府桜座
6. 翔べない二人/2007年12月県立文学館
7. 基板/2008年12月甲府桜座
8. へらずの酒/2009年8月甲府桜座
9. 難破船の仔羊たち/2010年8月県民文化ホール
10. ビバリーヒルズの紋白蝶/2011年10月県立文学館
11. 世にも不思議な二つの物語/2012年8月双葉ふれあい文化館
A『天才たちの午後』 B『カラスの群れと駱駝たち』
12. オウバアキル/2013年8月甲府桜座
13. 翔べない二人（再演）/2014年6月甲府桜座
14. お賽銭で・・・今夜は焼き肉ねっ！/2014年11月甲府桜座
15. 純愛幼稚園/2015年10月甲府桜座
16. アガペーの女/2016年5月甲府コットンクラブ2FBlue Moon・
6月シアターガイア・7月小菅村体育館・10月貢川進徳幼稚園
17. 春琴抄逆張り/2017年6月甲斐善光寺・7月甲府桜座
18. 歌舞伎町のマリア様/2017年10月甲府桜座
19. 源蔵の恋/2018年10月甲府桜座